

## 【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2024年10月10日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	国際日本学部国際日本学科
留学(渡航)した時の学年	3年生
帰国年月日	2024年9月19日
明治大学卒業予定年月	2026年3月
留学先大学について	
留学先国	アメリカ
留学先大学	カリフォルニア大学デービス校(日本語名) University of California, Davis(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語/英語
留学期間	2024年6月～2024年9月
留学先大学で在籍した学年	3年生
留学先の所属学部等	<input type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: 現地言語での名称:  <input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input checked="" type="checkbox"/> その他: 州立
学年暦 ※記入例: 1 学期: 4 月上旬～7 月下旬 2 学期: 9 月中旬～2 月上旬	1 学期: 9 月下旬～12 月中旬 2 学期: 1 月上旬～5 月中旬 3 学期: 5 月下旬～6 月上旬 4 学期: 6 月中旬～9 月中旬
学生数	38347 人
創立年	1908

## 留学費用

留学費用項目	現地通貨 (US \$)	日本円	備考
授業料	8,500	約 1,275,000 円	
宿舍費	2,455	約 368,250 円	
食費	300	約 45,000 円	ホームステイ費に食費が含まれていた。
図書費	75	約 11,250 円	サマーセッション 1、2 ごとにオンライン書籍サービスを利用できる。授業によって紙の本の指定があったり、教科書が不要であったりするため、授業に参加して利用するかどうか決めると良い。
学用品費		円	
携帯・インターネット費	約 333	50,000 円	
現地交通費	75	約 11,250 円	学生証があれば無料で乗れるバスで通学した。自転車はシェアハウスのオーナーから借りた。(☑大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		円	
被服費		円	
医療費		円	
保険費	約 266	39,955 円	形態：明治大学から指定された海外旅行保険
渡航旅費	約 2,672	400,940 円	往復(何かあったときのためにキャンセル変更可能なチケットを購入したため、少し高額になってしまった。)
ビザ申請費	515	円	
雑費		円	
その他		円	
その他		円	
合計	約 15,191	約 2,201,645 円	\$1=150 円として計算

## 渡航関連

### 渡航経路

往路 出発地:羽田空港 目的地:サンフランシスコ空港 経由地:

復路 出発地:サンフランシスコ空港 目的地:羽田空港 経由地:

### 渡航費用

① 往復チケットを購入した場合  
航空会社:JAL

料金:400,940 円

② 片道ずつチケットを購入した場合  
往路 航空会社:            料金:

復路 航空会社:            料金:                            ∴合計:

### 航空券購入方法

旅行代理店(店名:        )

インターネット(サイト名:        )

その他(        )

## 滞在形態関連

1) 種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舍等)

学生寮(寮の名前:        )     アパート     ホームステイ

2) 部屋の形態

個室     相部屋(同居人数        )

3) 共有部分

バス     トイレ     キッチン( 自炊可     自炊不可)

4) 住居を探した方法:

Davis Housing Services という大学から紹介されたサービスの一つを利用したが、出発の直前まで滞在先が見つからないことを不安に思い、結果的にはアメリカに住んでいる親族の友人に協力してもらい、滞在先を見つけることができた。

5) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

初めに利用していた仲介先からは到着の 2 週間前に滞在先が決まり、連絡をしてくれるとのことだった。しかしながら、滞在先が必ず提供できる保証はないとのことで、直前になっても滞在先が決まらないことを不安に思い、同時進行で自分で他の滞在先を見つけることにした。Davis は小さな町ということもあって滞在先が多くはなく、ホームステイ先である隣町の Woodland から学校に通っている友人もいた。寮は短期間の学生に向けて十分に用意されておらず、サブリースといって、夏に実家に帰省するなどの理由で部屋を空ける学生がその期間だけ他の学生に部屋を貸すことが一般的であるように感じた。私は結果的に友人の力を借りて滞在先を確保することができたが、出発日が近づく中滞在先だけが決まっていないことは精神的にとっても不安が大きかった。紹介された仲介先で滞在先を見つけている友人もいるので、必ずしもそのサービスがよくないわけではない。しかしながら、どの滞在先でも最悪の事態を想定し、サブリースやホテル、大学のホームページに記載されている緊急の滞在先など、自分自身でも調べることを強く勧める。

## 現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

なし

あり (治療を受けた場所: )

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

なし

あり (問題の内容や相談した人等: 事前に登録していた、履修するはずだった授業がキャンセルされたことが授業開始日の前日に分かった。人数の不足や先生の都合でよくあることだと聞いたが、結果的に予定していた授業 3 つ全て変えなくてはならなかった。International Center の GSP(Global Study Program, 留学時に所属するプログラム)の担当に話し、変更してもらうことができたが、事前に希望の授業がなくなる可能性があることも考慮し、いくつか他の候補を考えておくとよいと思われる。)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

大学や大使館からの犯罪に関するメールをチェックしていた。Davis はアメリカの中でも治安の良い場所であるが、自転車を利用する際はチェーンではなく U ロックが一般的であるため、購入するべきだ。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で 1 週間に 1 度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

Docomo には長期滞在用のサービスがなかったため、海外旅行用のサービスを使用したもののがかなり高額になってしまった。大学内や住居の WI-Fi 接続に関して困ることはなかった。私は現地の友人やホストマザーと LINE や Instagram を使用して連絡を取ったため、アメリカの電話番号を持っていないことが問題とはならなかった。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

ほとんどデビットカードを利用した。現金を大学の ATM で下ろすこともできるが、使用するタイミングは友人とお金のやり取りや光熱費を支払うときだけであった。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えて下さい。

化粧品、ボディケア用品 Davis は大きな町ではないこと、日本製の商品の方が安心して使用できるため。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

渡航前にクレジットカードで支払った。

## 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1) 留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
12 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由: )
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他( ) <input type="checkbox"/> 履修の制限があった:	
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人々へのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
AMS 10 Introduction to American Studies	アメリカンスタディーズ(初級)
科目設置学部・研究科	
履修期間	Summer Session 1(6 月中旬から 6 週間)
単位数	4
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義、ディスカッション形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 135 分が 3 回
担当教授	Dr. Megan Bayles
授業内容	アメリカの文化を定義する理想や対立を探究し、それらが今日を含む様々な歴史的瞬間において、アメリカにおける権力の働きによってどのように形成されてきたかについて学ぶ授業。
試験・課題等	・Reading ・Essay 1 週間に 3 回(reading に関する課題、一続きのプロジェクトに関する課題、授業の振り返り) ・Final Assignment American Dream について定義し、それをインタビューやポッドキャストなどにして表現する
感想を自由記入	American Dream とは何かについて学ぶ授業であった。よく耳にする言葉であるが、それはどのようにして生まれたのか、アメリカの人々にとって、移民、外国人にとってどのような意味を持つのかなどについて学ぶことが大変興味深かった。授業毎に出すコメントペーパーと週末の振り返りが成績のほとんどを占めていたため、成績に関して不安に思うことはなかった。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
AMS/FST 55 Food in American Culture	アメリカの食と文化
科目設置学部・研究科	
履修期間	Summer Session 2(8月上旬から6週間)
単位数	4
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義、ディスカッション形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に135分が3回
担当教授	Dr. Stacey Anh Baran
授業内容	歴史的、文学的、社会的アプローチを通して食べ物やアメリカの食文化について学ぶ授業。人種や階級、アイデンティティなどが食文化とどのように関わり、相互に影響を与えているかについて理解を深める。
試験・課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Reading 授業毎に平均30ページほど</li> <li>・Discussion Lead 数人のグループで準備、発表が必要な課題</li> <li>・Essay 6-800 words が1回</li> <li>・Final Project Culinary Authenticity についての定義、授業を行う</li> </ul>
感想を自由記入	これまで食文化や食べ物について学ぶ機会が少なかったため、貴重な機会だった。先生の専攻が映画であったため、授業内でもいくつかの映画やドキュメンタリーが扱われ、それらが描く社会的問題と食べ物との関連性について学ぶことが興味深かった。また、授業内での発言が成績の評価対象の一つになっていたため、ただ出席するだけでは評価として点数があまり取れない。懸念点であったが同時にいい経験だったと思う。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
GSW 70 Theory and History of Sexuality	セクシュアリティの理論と歴史
科目設置学部・研究科	
履修期間	Summer Session 2(8月上旬から6週間)
単位数	4
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義、ディスカッション形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に135分が3回
担当教授	Dr. Sarah Thompson
授業内容	セクシュアリティとは何かをテーマに、作品や史実を通して特定の時代にどのようにセクシュアリティが描かれ、表現されてきたかについて、文化的、歴史的背景を考慮しながら学ぶ授業。
試験・課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Reading 授業毎に平均50ページほど</li> <li>・Essay 毎週500 words</li> <li>・Final Exam 最終週にオンラインで行われた</li> <li>・Final Essay</li> </ul>
感想を自由記入	授業スライドや録音が最終週のテスト前日まで公開されることがなかったので、毎回授業のメモを取ることが大変であった。また、授業のほとんどをディスカッションで占めるので、事前に課題として出される reading を十分に理解しておくことが前提となっていた。授業でジェンダーやセクシュアリティについて意見を交わす中で、いかに日本が性教育や性的マイノリティに対して保守的で遅れを取っているかが分かった。授業毎の reading をこなすことが非常に大変であったが、そのおかげで確実に力がついたと思える。

## 卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記2以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

1) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。(例:留学中の就職活動に向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。) 就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

私は2年後期に希望していた留学プログラムに参加することができなかったのだが、就活に影響が出ることを不安に思い、同プログラムへの応募を諦めた。しかし、それでも在学中に留学を経験したいという思いがあり、3年後期よりも就活への影響が少ないと思われるこの3か月間の夏の留学へ応募することにした。

3年になって就活を本格的に始める同級生を見て漠然とした焦りや不安を感じることもあり、留学先でもSPIを受けたり、面接を受けたりしたが、現地の授業がとても大変で納得のいく準備を行うことはできなかった。留学中に就活を行うことは簡単ではないが、それでも留学前に今後どのように動くべきかということ把握し、関心のある企業や業界の選考フローを十分に理解しておくべきだ。海外で新たな価値観に触れ、多様なバックグラウンドを持つ人と出会うことは自分自身の視野を広げ、様々な選択肢があることを考えさせられる。そのため、それらをきちんと知っておくだけでも将来的に後悔のない選択に繋がるのではないかと思われる。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

## 留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	TOEFL iBT 受験、選考、出願
留学開始年	1月～3月	ビザ申請・取得
	4月～7月	航空券購入、滞在先の確保、渡航(6月中旬)
	8月～9月	帰国(9月下旬)
	10月～12月	
留学/帰国年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	

## 留学を志す学生へのアドバイス

※ これから留学を志す学生へ、この留学先国・大学を選んだ理由、留学生活全般等について、アドバイスを記入してください。

カリフォルニア大学という世界でもトップクラスの大学の授業に参加できるというプログラムにとっても魅力を感じ、留学を決意した。現地の学生は日本の学生よりも一生懸命勉強している印象を受けたが、私もそれを実感することで引き締め、これからも自分のやりたいことや目標に向かって努力し続けられるようになりたいと感じた。また、Davis の治安の良さもこの留学先を選んだ理由の 1 つである。自転車は盗まれるそうなので注意してほしいが、それでも他のアメリカの大都市とは異なる自然豊かな小さな町で、安全面に関して不安を感じることは少なかった。

留学はいつ行っても遅すぎることはないが、私は早く経験するに越したことはないと考えている。学年が上がるにつれ部活やアルバイト、就職活動など考慮しなくてはならないことが増え、留学を諦めてしまうことは非常にもったいないと感じる。私は 3 年前期にこのプログラムに参加したが、留学前から日本にいる学生に比べて就活に遅れを取ることに對して非常に不安を感じていたが、この留学を通して学んだことは私にしかできない価値のある経験だったと考えているので、後悔はしていない。卒業後の進路についての部分にも記載したが、就活を理由に諦めてしまうのではなく、まずは先輩や就職キャリア支援センターなどに相談に行くとういと思う。また、個人的な考えではあるが、留学への明確な理由を持っていないことから断念する必要はないと思う。もちろん目標や動機を持って留学することは大切であるが、日本とは全く異なる環境で多様なバックグラウンドを持つ人々に出会い、価値観に触れることは、日本では得ることのできない学びであり、その後の人生を確実に豊かにしてくれるものとなるはずだ。私は 1 年前に希望していたプログラムに参加できなかったことで留学を諦めようとしたが、今は諦めずに挑戦して本当によかったと思っている。留学前の手続きから滞在中まで困難に直面することはきっとあると思うが、諦めずにぜひ挑戦して欲しい。